慶應義塾大学ビジネス・スクール

ハニックス工業株式会社

1993年５月26日，ハニックス工業株式会社が，法人税法違反容疑で東京地検に告発されたことが報道された。このような状況のなかで，ハニックス工業の広川社長は，５月31日の月末決済資金の捻出に苦慮していた。

会社の概要

第二次大戦後，アメリカ軍はブルドーザーやパワーシャベルを日本に持ち込んだ。日本の造船，重機械，製鉄製鋼などの大企業は，この建設機械の威力を見て，競って，それらの技術を海外から導入した。当初，日本メーカーの製造した機械は，欧米製品のコピーの大型で，重く，高価な機械であった。このため，当時の中小建設会社や下請会社には購入できなかった。このような状況を見て，広川社長は，大手メーカーが製造していなかった小型で安価な建設機械，すなわち，人夫代わりやスコップ代わりの小型機械を開発することを目指した。そこで，1960年，広川昌氏は，埼玉県川越市に日産機材株式会社を設立した。1965年，広川社長は，手押し式ブルドーザー，ハンドドーザーを開発することに成功し，これら建機の製造・販売を進めた。1968年４月，広川社長は，自社開発建機のブランド名をとって，社名をハンドーザー工業株式会社に変更した。さらに，1968年10月，久保田鉄工と共同出資で，販売会社として日産機材株式会社を設立した（1971年８月に久保田鉄工が撤退したことによりハンドーザー工業の全額所有になった。）

ハンドーザー工業は，その後も，多くの新製品を開発した。1971年２月，掘削ミニバックホー第１号機（小型油圧ショベル）を開発した。1975年７月，全旋回，ブームスイング式ミニバックホーを開発した。さらに，1983年３月，ハニックス工業は，車幅内全旋回，ブームオフセット式ミニバックホー（Ｓ＆Ｂシリーズ）を開発した。従来の大型機械では，幅４メートル以下の道路下の下水道工事には対応できず，人手に頼っていたが，こ

このケースは，慶応義塾大学教授の鈴木貞彦が同大学院経営管理研究科でのクラス討議のために，外部資料にもとづいて作成したものである。このケースは，経営の巧拙を例示するためのものではない。（1993年10月作成）

Copyright © 1993 by Professor Sadahiko Suzuki of Graduate School of Business Administration, Keio University, Japan. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, used in a spreadsheet, or transmitted in any form or by any means - electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise - without the permission of the author. (Prepared in October 1993)